月経前症候群（PMS）に関する男性の認識についての文献検討
～和英文献による比較～

201011　落合花夏　201020　小峰音葉　201048　星野空

指導教員：巻島愛　吉原茉寿

背景

PMSによって日常生活に困難を抱えている女性が多い（厚生労働省,2022）

PMS/PMDDの困難度3段階(困難度低/中/高)のうち「PMS/PMDDの困難度高」が47.8%

女性に対する周囲の理解や配慮が必要

PMSに関して男性は無知・無関心（武谷,2020）

認識として「分からない」（石川ら,2011）

- **PMSをもつ女性の感情面の変化を理解している男性は少ない**
- **男性のPMSについての認識や現状に関する文献をまとめたものはない**

目的

海外と日本とのPMSの認識に関する文献を比較することで、**日本人男性のPMSに関する認識を明らかにする。**

用語の定義

1. **月経前症候群：PMS（Premenstrual Syndrome）**
   月経開始の3～10日前の黄体期に続く精神的あるいは身体的症状で、月経開始とともに減弱あるいは消失するもの（日本産婦人科学会,2021）
2. **月経前気分不快障害：PMDD（Premenstrual Dysphoric Disorder）**
   PMSの中でも精神症状が主体で精神の不安定さが際立って強い場合（日本産婦人科学会,2021）

研究対象

和文献、英文献、原著論文

和文献:医中誌web、CiNii Research、Google Scholar
- 「男性」「月経前症候群（PMS）」
- 「男性」「月経前症候群（PMS）」「認識」

英文献:Pubmed
- 「Premenstrual Syndorome」「man」

※文献の絞り込み・条件「原著論文」「会議録除く」

和文献41件、英文献100件

14件（和文献2件、英文献12件）

データ分析方法

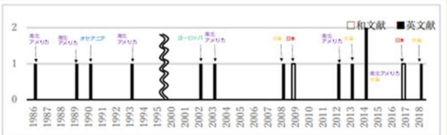
- **マトリックスシートを用いて整理**
  項目：「対象文献のタイトル」「著者」「発行年」「研究目的」「研究デザイン」「研究対象」「研究方法」「研究結果」
- 研究結果からPMSに関する男性の認識について記述されている箇所を抽出
- 抽出した箇所の内容をカテゴリー化

倫理的配慮

研究データや結果の捏造・改竄、違法な文献複写、不適切な引用などがないように配慮し、著作権を侵害しないよう配慮する。

結果：国別の研究動向と年次推移

- 2000年以前は4件の研究のうち3件が**南北アメリカ**
- 2008年以降は8件のうち4件が**中東**
- アジア圏の文献は**日本**のみで2009年と2017年の**2件**



結果：研究の種類と研究対象者

1. 研究の種類

	量	質	量的質的
和	0	1	1
英	6	4	2

2. 研究対象者

	男性	女性	男女
和	0	0	2
英	3	5	4

結果：PMSに関する男性の認識についての検討結果①

	カテゴリ	サブカテゴリ
和文献	PMSに関する男性の認識	PMSに関する男性の認識
	月経に関する男性の認識	月経教育についての男性の認識
英文献	PMSに関する男性の認識	PMSに関する男性の認識
	PMSが与える様々な影響に関する男性の認識	PMSが家族に与える影響への理解
		PMSがパートナーに与える影響についての理解
		教育水準の格差によるPMSへの理解
		PMSが社会に与える影響についての認識
	PMSの女性に対する男性の向き合い方	男性のPMSへの対処方法に関する認識
	メディアや文化の影響から生じるPMSへの認識	月経と宗教的関連
		PMSとメディアとの関連

結果：PMSに関する男性の認識についての検討結果②

〈和文献〉

- 対象文献は**2件**
- **月経について**教育を受けた認識はある（文献①戸田ら，2019）
- **PMSについて知っている男性**は**10%**であった（文献②宮内ら,2017）

結果：PMSに関する男性の認識についての検討結果②

〈英文献〉

- 男性は**女性がPMSを持つ**こと、**身体的変化**があることを理解していた（文献⑤　A.P.Christensen/文献⑩　Maria Y.Makuchら）
- PMSが**家族やパートナーに与える影響**を理解していた（文献⑦　Luciana Magnoni Roberteら/文献⑨　Marie Annette Brownら）
- **女性への向き合い方**を明らかにしていた（文献④⑥⑦⑨⑩）
- PMSへの認識は**社会文化的側面と関連がある**ことを報告していた（文献③⑪⑬⑭）

考察：文化的背景と性意識の変遷から見た研究動向

＜南北アメリカ＞
- **1960～1970年代**にセクシュアリティ教育が普及した
- **宗教的自由**や**独立国家**としての特色が強い
- 性に関して寛容であることが推察される

＜中東＞
- 女性特有症状を**不浄なもの**とする風潮がある
- 1990年代から**フェミニズム運動**が普及
- 女性の地位向上を求める風潮が生じ始めた

考察：文化的背景と性意識の変遷から見た研究動向

＜日本＞
- アジア圏では儒教信仰が強く**男女格差の固定概念**も強い
- 女性特有症状の理解や研究に影響を与えていると推察される

月経やPMSの認識には文化や宗教との関わりも強い

→1980年代に**女性差別撤廃条約**、1994年に**リプロダクティブヘルス**が提唱された
→国際的な**男女平等社会**を目指す取り組みがなされている
→取り組みと共にPMSに関する研究が行われていくと考えられる

考察：PMSに関する男性の認識の比較

日本と海外を比較すると…

- PMS に関する男性の認識については同様の研究が行われている
- 日本は研究が少なく、男性の PMSに関する**認識にまで至っていない**
- 海外では男性は PMS について認識しており、かつ**対処法や影響・文化的側面**まで関連付けた研究へ繋がっている

＜ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」＞

5～8歳
性教育の開始

9～12歳
月経時期に女子が経験する身体的症状や感情に関する教育の推奨

考察：PMSに関する男性の認識の比較

＜日本の性教育の特徴＞
- 9～10歳で月経についての教育が開始
- **身体面に限局**されており、**心理面の変化の内容の充実性が乏しい**
- 学習指導要領改訂では**妊娠の経過までは取り扱わない**という内容

- **性教育ではPMSなどの心理的・情緒的問題の教育に至っていない**
- **PMSに関する男性の知識不足、および認識や支援の実施にまで至っていない**

＜海外の性教育の特徴＞
- 男性の認識のみならず、**パートナー、家族、社会へ与える影響**について明らかにされている

- **月経に付随する心理面の変化などの内容の充実性が高い可能性**
- **PMSを抱える女性への対処法、実践するまでの研究が行われている**

考察：今後の展望

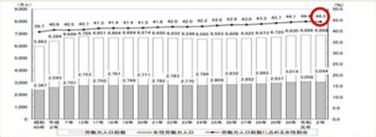
日本の労働力人口総数に占める女性割合:44.3%と増加傾向

女性が働きやすい環境:女性特有症状に対する周囲の理解も必要

月経教育において心理的側面に着目した教育を男女ともに実施し知識の普及を図る必要がある

しかし…

健やか親子21ではPMSなどの心理面に関することは挙げられていない



厚生労働省（2020）

結論

- **日本の男性はPMSに関して認識にまで至っていない**
- **女性の社会進出に伴い、PMSなどの女性特有症状に関する周囲の理解を得るため、性教育の充足や心理面の教育を普及していく必要がある**

引用・参考文献

1）厚生労働省（2022）：「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」単純集計結果. https://www.mhlw.go.jp/content/000919869.pdf.
2)石川康代,杉絹子（2011）：男性のもつ月経観と月経に関する知識の現状-男子大学生及び既婚男性への調査-,243-245.
3)武谷雄二（2020）：PMS 月経前症候群　正しい知識をもつために,81,メジカルビュー社.
4)日本産婦人科医会（2021）：月経前症候群（PMS：premenstrual syndrome）.
5)岩木珠美（2008）：イスラムと女性の人権-国連での討議をとおして-,創価法学.
6)後藤絵美（2022）：イスラームにおける女性観,一般社団法人　平和政策研究所.
7)鳥山純子（2018）：中東ジェンダー研究の挑戦 -ジェンダー化されたオリエンタリズムを超えて-.
8)西岡笑子（2018）：わが国の性教育の歴史的変遷とリプロダクティブヘルス/ライツ,日本衛生学会誌.
9)ユネスコ（2020）：国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】-科学的根拠に基づいたアプローチ-,明石書店
10)文部科学省（2017）：小学校学習指導要領　体育編,109. https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/20.
11)文部科学省（2017）：中学校学習指導要領解説　保健体育編,216-217.https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf.
12)厚生労働省(2020）：令和2年の働く女性の状況.https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/dl/20-01.pdf.
13)厚生労働省（2012）：「健やか親子21」における目標に対する最終評価・分析シート. https://www.mhlw.go.jp/file/05-shingikai-11901000-koyoukintoujidoukateikyoku-soumuka/0000021987.pdf.